



# 行政のレベル・アップを求めて

近畿管区行政評価局第一部長

**龍宮 克宏** TATSUMIYA Katsuhiko

昭和55年 4月 行政管理庁採用  
近畿管区行政監察局  
平成14年 4月 行政評価局評価監視調査官  
平成17年 7月 行政評価局総括評価監視調査官  
平成18年 7月 内閣官房行政改革推進室企画官  
平成20年 2月 行政評価局総務課評価監視企画官  
平成23年 4月 行政評価局行政相談課行政相談業務室長  
平成24年 4月 中部管区行政評価局第二部長  
平成26年 4月 九州管区行政評価局第二部長  
平成27年 4月 九州管区行政評価局第一部長  
平成28年 4月 現職

## 『基本的な調査は2種類』

「出先」となる管区局で、行政評価局調査を担当しています。調査は、基本的に2種類(他に「政策評価」も)。本省が企画する「全国計画調査」と、出先が独自に企画する「地域計画調査」です。①全国計画調査は、本省の設計に基づき、全国ネットで管区局や事務所が実地調査(4か月が基本)を行い、「実証データ」を把握します。本省が調査結果全体を取りまとめ、関係府省に制度改正など「勧告」を行うという流れです。②地域計画調査は、本省の動員計画(どの調査にどの局所を動員するか)に生じた「アキ」を活用し、管区局が独自に企画(毎年2テーマ程度)。調査の結果、改善すべき事項などあれば、調査対象機関に「改善意見」を通知します。調査で重要かつ基本となるのは、「事実の正確な把握」です。どちらの調査も、国民のために、行政のレベル・アップを求める活動です。29年度からは、実地調査1か月の短期調査も行います。ニーズの変化に対応する試みです。

## 『現場』に出向く』

「自ら考える」という苦しさなどありますが、独自企画の調査に大きな意義を感じます。前任の九州管区局で、火山の安全対策を調査しました。九州には、桜島など火山が多い。御嶽山噴火による死傷事故も踏まえた調査です。同じような事故が九州で発生しないとも限りません。県や市町村、山上で営業する事業者などの御協力も得て、安全対策の取組状況を調べました。調査チームの職員(監視官以下5人)は、立入可能な範囲で阿蘇山などにも実際に登り、退避壕の状況など確認しました。福岡から出張し、夏の暑い中、いつ噴火するか分からない危険も伴います。チームには、先々も考え、新規採用職員を加えました。ぎつい調査のはずが、「これまでの業務にない経験ができ、おもしろかった」との感想。期待以上の成長です。報道資料には、メンバーの苦労も伝わるよう、現地踏査の写真も添付。記者会見には、メディア9社、カメラ4台が入る、地方で異例の反響でした。

## Some One Week

### Monday

本省監視官と調査の進め方など打合せ。管区局監視官に伝達、指示

### Tuesday

次期地域計画調査の主なチェック事項等(骨格)の作成、検討

### Wednesday

本省地方業務室長に次期地域計画調査の概要など事前連絡

### Thursday

管区局監視官と全国計画調査の取りまとめ内容の検討、修正指示

### Friday

次期全国計画調査に先行し現地を下見。概要と写真を本省にも提供



## Private Time

健康管理を兼ね、土日どちらかでスローランニング。大和川の土手がマイコースです。体調や風向き等に応じ、折り返し地点を決めます。気ままに6km程度。四季折々の景色もながめながら、ひたすらマイペース。抜かれることはあっても、追い抜くことはまずないですね。汗をかき、体内脂肪を燃やすことが最優先なので。